

ひがんばな 彼岸花が鮮やかに咲きほこる頃、お中 日にあたる秋 分の日の前後一週間は秋のお彼岸です。お彼岸、彼岸会は春と秋の二回あることはみなさんご存じだと思いますが、秋分の日はまだ国民の祝日でもあり、ご先祖さまをうやまい、亡くなった方々を偲ぶという、大切な日です。

秋分の日をはさんで前後の一週間、お仏壇のある家庭では、お仏壇のお掃除をし、線香立ての中に残ったお線香を取り出して綺麗に均し、仏具を磨きます。そして、ご先祖さまに季節の花、お水やお茶、おはぎや団子などをお供えしお参りをします。

また、お寺にお参りをし、ご本 尊様に手を合わせ、お墓参りをします。地方によっては、お彼岸中にお坊さんが家にお 経 を読みに来てくれるところもあります。

お彼岸は、ご先祖さまの恩に報い、今生かされていることに感謝をして過ごす期間です。

「彼岸」という言葉は、インドの古い言葉「パーラミター」からきています。「パーラミター」の意味は、「到る」「彼岸」と書いて「到彼岸」（とうひがん）と読み、悩み苦しみのない心安らかな涅槃の世界に到る、ということです。

「パーラミター」を「波羅蜜多」と漢字で音そのまま訳す場合もあります。大切なお経でみなさんご存じの、『摩訶般若波羅蜜多心経』（般若心経）の「波羅蜜多」がこれにあたります。

この「波羅蜜」には六波羅蜜という具体的な修行方法があります。

その六つの修行とは・・・

「布施」（ことばや行いの 施 しをすること）

「持戒」（お釈迦さまのきまりを守ること）

「忍辱」（苦しみに耐える強い心をもつこと）

「精進」（怠らず日々努めること）

「禅定」（落ちついた心でくらすこと）

「智慧」（お釈迦さまの教えのもとに正しい信仰生活をおくること）

・・・この六つです。

この六波羅蜜の修行を彼岸会 中 に行うのです。

日本における仏教の大事な修行期間がこの彼岸会なのです。